

# 「まほろば」で技術者の卵たちと文学を味読する — 平成 29 年度 奈良高専「国語Ⅲ」の概要報告 —

千葉 幸一郎<sup>\*1</sup>

## To Read Literary Works with Students in “Mahoroba” — A Report of “Japanese III” of Nara National College of Technology in 2017 —

Koichiro CHIBA

This paper is the report that we read literary works about Nara Prefecture in “Japanese III” classes of Nara National College of Technology in 2017. Nara Pref. is called “Mahoroba”, which means great and splendid land of Yamato, has been written in many literary works from “Man’yōshū” to modern poems. To read the texts is very useful to understand the place that the students live in. According to the questionnaire, the 2/3 of students thinks suitable the class, and half of them appraise useful.

KEYWORDS : Japanese Education, Area Studies, COC (Center of Community)

### 1. はじめに

筆者は平成 28・29 年度の 2 年間、「高等専門学校・両技科大間人事交流制度」によって奈良工業高等専門学校（以下、奈良高専と略記）へ出向した。その間、本科 3 年生全 5 学科（機械工学科・電気工学科・電子制御工学科・情報工学科・物質化学工学科）の「国語Ⅲ」（通年 2 単位必修、履修科目）を担当した。1 年目の平成 28 年度は検定教科書（第一学習社『現代文 B』）を利用したが、2 年目の平成 29 年度には自作のプリントをテキストにして、現在の奈良県の各地を舞台とする古代から近代までの文芸作品を鑑賞した。本稿は、その実践報告である。

### 2. 授業について

#### 2. 1 授業の意義

国立高等専門学校機構は平成 23 年度にモデルコアカリキュラム（試案）を策定した。その中で「国

語」の学習内容には「古文・漢文」が設定されており、4 つある到達目標のひとつとして「古文・漢文にふれ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深めるとともに、それらに親しもうとすることができる」ことが挙げられていた。しかし、平成 29 年に示された改訂版では学習内容から「古文・漢文」が消え、到達目標からも古典に関する文言が削除されている。ただし、古典「で培えるものは少くない」ということで、「国語」の授業科目のみの到達目標として、

- ・ 伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できる。
- ・ いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの方を理解し、自分の意見を述べるができる。

さて、モデルコアカリキュラムの改訂版が示される前の平成 29 年 4 月から、筆者は奈良高専で 3 年生対象の「国語Ⅲ」を担当した。周知の通り、奈良県は「法隆寺地域の仏教建造物」「古都奈良の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」という 3 つの世界遺産

\*1 総合工学科 N3 ユニット (Dept. of General Engineering, N3 Unit)

を有する、日本屈指の観光地である。

奈良高専の所在する大和郡山市近郊にも数多くの文化遺産があり、同校の「システム創成工学教育プログラム」においては「2. 学習・教育到達目標」として「近隣に存在する古都奈良の豊富な歴史的な文化遺産を通して伝統と文化の重要性を理解し、伝承された技術を通して技術の発展の重要性を理解できる」(下線、引用者)ことを挙げている。また、平成27年度の文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」で採択された「共創郷育:「やまと」再構築プロジェクト」(奈良高専・奈良女子大学・奈良県立大学の協働事業)においても、「地域創生マインド養成教育プログラム」の1番目に「地域への友愛を涵養する地域創生理解科目の新設」が掲げられている。それまでも国語や歴史関連の授業の一部、あるいは年度始めに行われるハイキングなどのレクリエーションを通して、奈良の地の「伝統と文化の重要性」は学生たちに教授されてきただろう。しかし、東北に生まれ育ち、「まほろば」の地に憧れを抱いてきた筆者としては、もう少し奈良に特化した授業を行ってもよいのではないかと考えた。そこで、シラバスでは次のように謳った。

奈良は古代より「日本」文化の中心であった。したがって、奈良の地を舞台とした文芸作品が数多く作られている。本授業は、古代より近代に至る奈良の地を舞台とした著名な文芸作品を講読することにより、言葉に親しみ、私たちが学ぶ奈良の地について概観することを主眼とする。

また、到達目標として、次の3つを設定した。

1. 古典において、既習の文法的知識を基に適宜古語辞書を利用しながら、作品を正確に解釈し鑑賞することができる。
2. 現代文において、一言一句の意味や文章の展開などを正確に読み取りながら、随筆および詩歌では筆者や作者の独自のものの見方・感じ方について、小説では作中人物の心情や思想について、自分なりの捉え方や考え方を持つことができる。なお、小説は授業内で扱わず、長期休暇の課題とする予定である。
3. 百人一首において、五十首のうち十首以上暗唱できる。

3は直接「奈良」と関わるものではないが、以前

より仙台高専の「国語」の授業でも行ってきたものである。詳細については、参考文献に挙げた拙稿<sup>1)2)3)</sup>を参照されたい。私見によれば、古典に多くの時間を割けない高専の国語のカリキュラムにおいて百人一首を音読・暗唱することは、古典文法を学ぶ有効な方法である。また、周知の通り百人一首の中には現在の奈良県に該当する場所(天の香具山・龍田川・吉野など)も数多く詠まれており、本授業の主眼である「奈良の地について概観する」ことにも添っている。

## 2. 2 授業の進め方と内容・方法

シラバスでは授業の進め方について、

基本的にグループ活動を通して本文を講読・解釈・鑑賞する。また、授業の冒頭で1回あたり2首ずつ百人一首の歌を全員で複数回音読し、暗唱できるよう努める。

と記し、授業計画を次ページの表1のように示した。採用した文芸作品は次々ページの表2で示した通りである。基準は、①かつて高等学校用検定教科書に採用されていたもの、②現在も採用されているもの、③文学史において特筆すべき作品、のいずれかである。平安文芸に登場する長谷寺参詣や『義経記』『太平記』の吉野山、あるいは近松『冥途の飛脚』の新口村の段、『妹背山婦女庭訓』、そして保田與重郎のエッセイなど捨てがたいものも多いが、初学者向けではない、あるいはそれほど著名ではない、などの点から残念ながら割愛した。

さて、表1の通り、前年度末にシラバスを作成した段階では、前期に古典、後期に近代以降の作品を読み進めるつもりであった。しかし、実際に進めみると学校行事等でうまくいかず、前期には『平家物語』までしか進めなかった。また、志賀直哉のエッセイ「奈良」(昭和13)は授業の中で行う時間がなくなってしまい、不本意ながら読解と感想文を冬季休業中の課題とした。

なお、具体的な進め方は教材によって次のように変えた。

### 〔古典および近代以降の詩歌の場合〕

- ① 講師が本文を範読する。
- ② 講師の音読に続いて学生に斉読してもらい、リズムを味わう。

「まほろば」で技術者の卵たちと文学を味読する  
 ー平成29年度 奈良高専「国語Ⅲ」の概要報告ー

表1 授業計画

2017 シラバス

3MESIC003

授業計画

	週	授業内容・方法	到達目標	自己評価*
前期	1週	神武東征（古事記）(1)	本文を流暢に読み、話し合いでグループとしての口語訳を作成できる。	
	2週	〃 (2)	グループで口語訳を発表し合い、正確な解釈を理解できる。	
	3週	万葉集の中の奈良(1)	歌を問えることなく音読し、気に入ったものを選択することができる。	
	4週	〃 (2)	選択した歌を正確に解釈し、クラスメイトに示すことができる。	
	5週	筒井筒（伊勢物語）(1)	本文を流暢に読み、話し合いでグループとしての口語訳を作成できる。	
	6週	〃 (2)	グループで口語訳を発表し合い、正確な解釈を理解できる。	
	7週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	
	8週	試験返却・解説	試験問題を見直し、正しい解答を理解できる。	
	9週	猿沢池（大和物語と宇治拾遺物語）(1)	本文を流暢に読み、話し合いでグループとしての口語訳を作成できる。	
	10週	〃 (2)	グループで口語訳を発表し合い、正確な解釈を理解できる。	
	11週	南都炎上（平家物語）(1)	本文を流暢に読み、話し合いでグループとしての口語訳を作成できる。	
	12週	〃 (2)	グループで口語訳を発表し合い、正確な解釈を理解できる。	
	13週	歌の中の奈良〔古典編〕(1)	和歌を問えることなく音読し、気に入ったものを選択することができる。	
	14週	〃 (2)	選択したものを正確に解釈し、クラスメイトに示すことができる。	
	15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	
	16週	試験返却・解説	試験問題を見直し、正しい解答を理解できる。	
後期	1週	近代詩の中の奈良(1)	詩を問えることなく音読し、気に入ったものを選択することができる。	
	2週	〃 (2)	選択した詩を正確に解釈し、クラスメイトに示すことができる。	
	3週	和辻哲郎『古寺巡礼』(1)	文章の大意を掴み、各段落のつながりや展開を理解できる。	
	4週	〃 (2)	段落ごとに文脈を理解し、文意を正しく捉えることができる。	
	5週	亀井勝一郎『大和古寺風物誌』(1)	文章全体の大意を掴み、各段落のつながりや展開を理解できる。	
	6週	〃 (2)	段落ごとに文脈を理解し、文意を正しく捉えることができる。	
	7週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	
	8週	試験返却・解説	試験問題を見直し、正しい解答を理解できる。	
	9週	堀辰雄『大和路』(1)	文章全体の大意を掴み、各段落のつながりや展開を理解できる。	
	10週	〃 (2)	段落ごとに文脈を理解し、文意を正しく捉えることができる。	
	11週	百人一首大会／歌の中の奈良〔近代編〕(1)	少なくとも1枚は取り札を取ることができる。また、短歌・俳句を問えることなく音読し、気に入ったものを選択することができる。	
	12週	〃 (2)	選択したものを正確に解釈し、クラスメイトに示すことができる。	
	13週	志賀直哉「奈良」(1)	文章の大意を掴み、各段落のつながりや展開を理解できる。	
	14週	〃 (2)／落語の中の奈良	段落ごとに文脈を理解し、文意を正しく捉えることができる。また、桂米朝「鹿政談」を視聴し、内容およびオチを理解することができる。	
	15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	
	16週	試験返却・解説	試験問題を見直し、正しい解答を理解できる。	

\*4：完全に達成した，3：ほぼ達成した，2：やや達成できた，1：ほとんど達成できなかった，0：まったく達成できなかった。

表2 扱った文芸作品

	時代	内容
1	奈良	『古事記』より「神武東征」
2	奈良	『万葉集』の中の「奈良」十首 1. 額田王「三輪山を…」(巻1-18) 2. 志貴皇子「采女の…」(巻1-51) 3. 小野老「青丹よし…」(巻3-328) 4. 大伴旅人「沫雪の…」(巻8-1639) 5. 笠女郎「君に恋ひ…」(巻4-593) 6. 高市黒人「大和には…」(巻1-70) 7. 山部赤人「み吉野の…」(巻6-924) 8. 大津皇子「ももづたふ…」(巻3-416) 9. 大伯皇女「うつそみの…」(巻2-165) 10. 柿本人麻呂「東の…」(巻1-48)
3	平安	『伊勢物語』より「筒井筒」
4	平安	猿沢池2題 『大和物語』より「采女の悲恋」(第150段)と『宇治拾遺物語』より「藏人得業猿沢の池の龍の事」(巻第11ノ6)
5	平安 ～ 鎌倉	八代集の中の「奈良」十首 1. 僧正遍昭「いその神…」(後撰49) 2. 在原業平「春日野の…」(新古今994) 3. 紀貫之「吉野河…」(古今471) 4. 凡河内躬恒「春立つと…」(後撰2) 5. 伊勢「三輪の山…」(古今780) 6. 藤原俊成「雪ふれば…」(新古今677) 7. 西行「あきしのや…」(新古今585) 8. 式子内親王「ふりにけり…」(新古今485) 9. 藤原定家「年もへぬ…」(新古今1142) 10. 後鳥羽院「み吉野の…」(新古今133)
6	鎌倉	『平家物語』より「奈良炎上」(巻5)
7	江戸	俳諧の中の「奈良」十五句 1. 芭蕉「水とりや氷の僧の杵の音」 2. 芭蕉「若葉して御目の垂拭はばや」 3. 芭蕉「菊の香や奈良には古き仏たち」 4. 凡兆「山吹の蒼も青し吉野川」 5. 曾良「春の夜はたれか初瀬の堂籠」 6. 去来「つづくりもはてなし坂や五月雨」 7. 許六「菜の花の中に城あり郡山」 8. 其角「海松の香に杉の嵐や初瀬山」 9. 支考「秋篠の雪ほの白し鷹の鈴」 10. 也有「香久山に赤ひもの干すつゝじ哉」 11. 蕪村「秋の燈やゆかしき奈良の道具市」 12. 蕪村「春雨やゆるい下駄借す奈良の宿」 13. 蕪村「花に遠く桜に近しよしの川」

		14. 一茶「笛吹てはせ山越る盆の月」 15. 一茶「行春の空はくらがり峠かな」
8	大正8	和辻哲郎『古寺巡礼』より「中宮寺観音」
9	昭和17	亀井勝一郎『大和古寺風物誌』より「塔について」
10	昭和18	堀辰雄『大和路・信濃路』より「浄瑠璃寺の春」
11	明治 ～ 昭和	近代詩歌の中の「奈良」 【詩】薄田泣菫「ああ、大和にしあらましかば」 【短歌】 1. 佐佐木信綱「ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲」 2. 会津八一「おほてら の まろき はしらの つきかげ を つち に ふみつつ もの を こそ おもへ」 3. 川田順「寧楽へいざ伎芸天女のおん目見にながめあこがれ生き死なむかも」 4. 前川佐美雄「春がすみいよ濃くなる春屋間のなにも見えねば大和と思へ」 5. 前登志夫「かなしみは明るさゆゑにきたりけり一本の樹の翳らひにけり」 【俳句】 1. 正岡子規「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」 2. 夏目漱石「梅咲て奈良の朝こそ恋しけれ」 3. 河東碧梧桐「手向山紅葉に鹿を愛すかな」 4. 高浜虚子「秋篠はげんげの畦に仏かな」 5. 水原秋桜子「春惜むおん姿こそとこしなへ」 6. 阿波野青畝「葛城の山懐に寝釈迦かな」 7. 西東三鬼「枯蓮のうごく時来てみなうごく」

- ③ 重要な文法事項を確認した上で、解釈する。その際、授業担当者が用意した口語訳のプリントの穴埋めをする形にした。
- ④ 解釈を踏まえて内容を確認し、鑑賞する。
- ⑤ 最後にもう一度②を繰り返す。

【近代以降の随筆の場合】

- ① 学生を指名し、内容段落ごとに音読してもらう。
- ② 次ページ図1上のプリントを使用し、問題と解答例のセットを各自2つ以上作ってもらう。
- ③ 3～4名でグループを作ってもらい、②で作ったものを見せ合ってもらい、そして話し合いによって最もよくできていると思われるものを選出してもらう。それをグループの代表として図1

下のプリントに記載してもらい、提出してもらおう。

- ④ ③で提出してもらったものを担当者がまとめてプリントを作成する。次の回の授業で学生に配布し、受講者全員に授業時間内で自分なりの解答を作ってもらおう。例として、『古寺巡礼』を扱った際に電気工学科の授業で作ったプリントを右の図2に示す。
- ⑤ パワーポイントを利用し、学生が提出した解答例と担当者が考えた解答とを併記して図3のように黒板に示す。どちらがよりふさわしいか、あるいは自分で作った解答と照らし合わせてもらった上でもっと適切な解答はないか考え、話し合ってもらおう。
- ⑥ ⑤をふまえて、模範解答を確定する。

このほか、学生が所持している漢字テキストを使用し、10点満点の小テストを月に1~2回おこなった。なお、俳句の授業の様子が奈良高専のホームページ<sup>4)</sup>に掲載されているので、参照されたい。

期間	科・コース	番(氏名)

※【問】および、それに対する本文を踏まえた要旨だとと思われる【答】のセットを、2つ以上作ってみましょう。

---

期間(選抜)	科・コース	メンバー( )
【問】		
【答】		

図1 問題&解答作成プリント

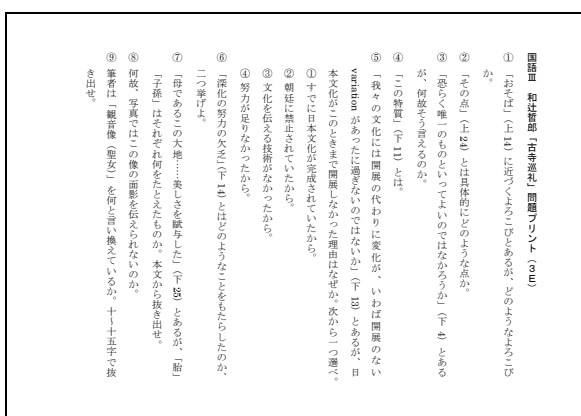


図2 問題プリントの例  
 (電気工学科3年の『古寺巡礼』のもの)

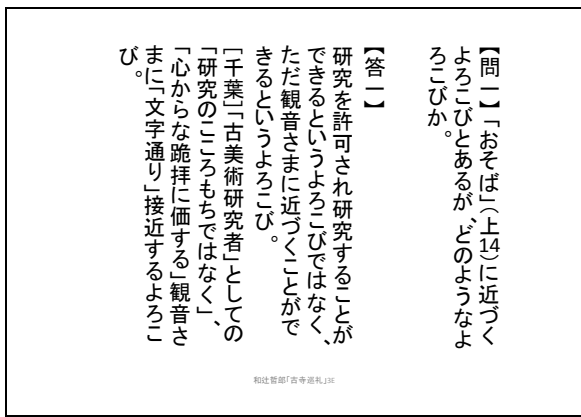


図3 授業用スライド  
 (電気工学科3年の『古寺巡礼』のもの)

### 3 成績評価の方法と結果

さて、評価については、シラバスで「定期試験成績(80%),読書感想文・小テスト等(20%)を含めて総合的に評価する」と明示し、受講者に周知した。読書感想文は夏季休業中課題とし、奈良県立図書館のホームページの「奈良を舞台にした文学作品」<sup>5)</sup>に掲載されている小説・物語の中から、長編ならば1冊、短編ならば3作以上を読み、それぞれ50~100字で感想を書くよう指示した。最多で7つ書けるような形式のプリントを用意したところ、すべて埋めてくれた学生が数名いた。

定期試験は、前後期それぞれ中間と期末、都合4回行った。内容は、授業に関するもの80点、百人一首の上の句と下の句のセットを作るもの10点、小テストで行った漢字の書き取りの再確認10点の100点満点で作成した。その際、学生に作ってもらったものの中で良問だと思った問いも取り入れた。具体

的な試験問題と解答例については今後、支障のない範囲で本校のブラックボードに掲載する予定である。

下の表3は、全4回の試験の平均点である。筆者は平均点が70~75点になるように試験を作成するのが理想的だと考えており、目論見通りとなった。

表3 各試験の平均点

	前期中間	前期期末	後期中間	学年末
全体	74.0	72.3	74.3	74.8

#### 4 授業評価アンケート

ところで、多くの教育機関で試みられているように、奈良高専でも年度末に「授業評価アンケート」を行って授業の改善に努めている。その形式は任意だったので、この授業について

- ① 授業内容は適切だった（簡単すぎず、難しすぎなかった）か
- ② 勉強になった（ためになった）か
- ③ 楽しかったか
- ④ 次年度以降も継続して「奈良の文学作品」を読むべきか

の4点について、「強くそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階で評価してもらった。右の図5~8はその結果を円グラフにしたものである。

また、任意で感想も書いてもらった。否定的なものや肯定的なものそれぞれ5つほど、以下に列挙する。また、参考になる意見も多く寄せられたので、示したい。（表記ママ）

##### 【否定的感想】

- ・ 奈良の事ばかりして楽しいのはお前だけだよ／正直奈良の文章ばかり読んでいても意味ない／他の文章も読ませたほうがいいよ
- ・ 趣味の押しつけに思えた。誰も国語を楽しみにしていなかったとだけ強くいいたい。
- ・ 鬱になるくらい奈良にふれさせられてしんどかったです
- ・ 古文をやる意味がわからない
- ・ 古文の時は文の意味が分からず特に面白さを感じなかった。現代文の時も毎回毎回奈良のことについて書いた文章だったが、大体寺に行つて

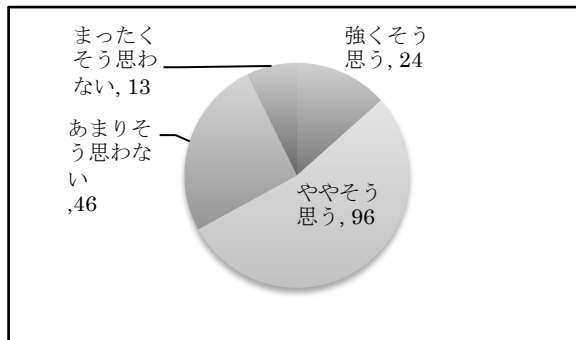


図4 授業内容は適切だった  
(簡単すぎず、難しすぎなかった)

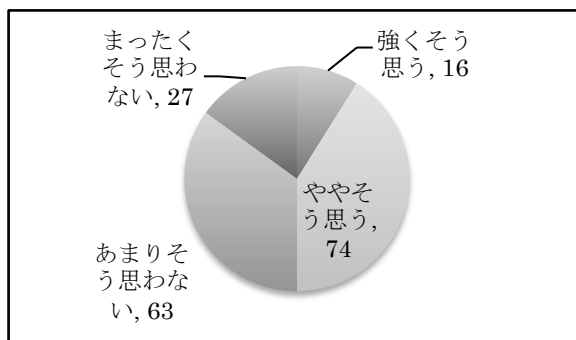


図5 勉強になった (ためになった)

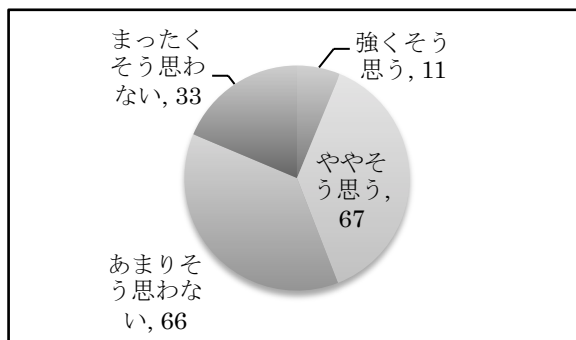


図6 楽しかった

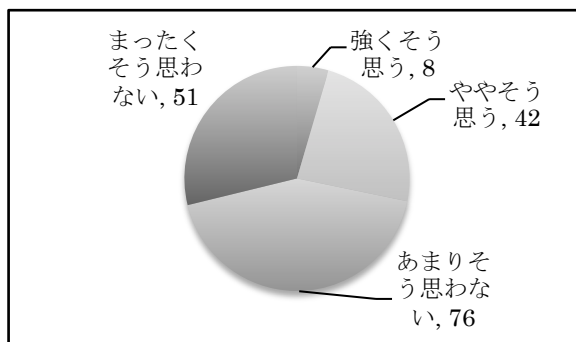


図7 次年度以降も継続して  
「奈良の文学作品」を読むべきだ

仏像やら廃きょやら塔やらをありがたがってるだけの内容でこれも特に面白くなかった（話にあまり違いが無さすぎる）

#### 【肯定的感想】

- ・ 奈良メインの授業は面白かった
- ・ 地元の勉強になりました
- ・ 奈良に住んでいても、奈良について知らないことが多かったため、改めて奈良の良さが分かり、良かったと思う
- ・ 今までみたいに教科書通りじゃないところが、型にはまっていなくて色んな作品を読めてよかった。教科書は有名なものしか読めないけど、あまり有名ではない句なども勉強できてよかった。
- ・ 奈良の事をよく知れてよかったです。また奈良に来てください。

#### 【意見】

- ・ 奈良の文学よりも皆が知っているような文学作品を学びたかったです。それだけでなく世間からダメだやおけていると言われているのに、なぜよりそれを加速させるような授業をするのか全く理解できない
- ・ 奈良の本を読むのは良いが、現代文の物語があってもよかったと思う。
- ・ 今、私に欠けている国語力を養うような授業もして欲しかったです。後、私には古典を学ぶ理由が、いまいち分からなかったです・・・。
- ・ 読書感想文でエッセイのようなものじゃなくて物語のようなもので書きたかった。

#### 5. まとめと今後の課題

成績と授業評価アンケートの結果を踏まえ、まとめると次のようになるだろう。

- ・ 平均点が70～75点になっている事実と、2/3以上の学生が「授業内容は適切だった」と考えているアンケート結果から、授業および試験内容は学生の学力に見合ったものだったと考えられる。
- ・ アンケートによれば半数の学生は奈良について学ぶことについて「勉強になった」と回答しており、その意義を認識している。
- ・ アンケートによれば「授業が楽しかった」と答えた学生は半数を切り、継続を求める学生はさ

らに減って3割程度だったので、継続する場合は授業に更なる工夫（例えば、前期は奈良に関わるテキストを読み、後期は教科書を使うなど）が必要だと思われる。

ところで、このような地元密着型の国語の授業は、奈良のような特殊な場所ではできないのだろうか。いや、そのようなことはないだろう。筆者は以前より仙台高専において、高等学校用検定教科書や自作のプリントを使用して、可能な限り地元に関わるテキストを読んできた。例えば、いわゆる「安定教材」とされる魯迅の「藤野先生」や芭蕉の『奥の細道』（かつて多く掲載されていた「松島」の場面は、最近採用されなくなってきているが）、あるいは本務校の近所で亡くなったという伝承のある藤原実方のエピソード（彼が宮中で藤原行成の烏帽子をたたき落としたという、『古事談』などに記載されているもの）などである。実方に関しては、本務校から約2kmのところにある実方の墓と伝えられる塚まで秋晴れの日に散歩をし、彼および『奥の細道』でこの地を通った芭蕉に敬意を表して短歌と俳句をひとつずつ作るのが恒例となっている。この授業についても、機会を改めて報告したいと考えている。

2019年度、筆者は、もう一人の「国語」担当である油座圭祐先生とともに半期ずつ3年生の「国語Ⅲ」を担当する予定である。油座先生には科学的な評論の講読を担当していただき、筆者は『万葉集』から「藤野先生」まで現在の宮城県に関わる文芸テキストを読み進める計画である。現在、本稿を執筆する傍ら、試行錯誤してシラバスを作成しているところである。

#### 謝辞

本稿は平成30年2月27日に奈良高専のFD発表会で行った報告「技術者の卵たちと「奈良の文学」を味わう—平成29年度「国語Ⅲ」の概要—」の発表原稿に基づいています。当日、貴重な時間を割いてご静聴くださった教職員の皆様に感謝申し上げます。

なお、今回の人事交流に当たっては、多くの方にご理解とご高配を賜りました。受け入れ先である奈良高専の前校長・谷口研二先生、現校長・後藤景子先生をはじめとする教職員の皆様、特に国語科の武田充啓先生、鍵本有理先生、松井真希子先生、および一般教科の先生方には、大変お世話になりました。また、本務校の前校長・内田龍男先生、現校長・福

村裕史先生をはじめとする教職員の皆様，特に総合科学系文科の先生方には多大なるご迷惑をおかけし，申し訳ない限りです。とりわけ油座圭祐先生には，不在のあいだ国語科に関わる一切の仕事をお引き受けいただき，心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。そして，引越し・転校などで迷惑をかけた妻と娘にも感謝します。ありがとう。

#### 参考文献

- 1) 千葉幸一郎：高専での国語教育における百人一首を用いた音読・暗唱の学習，論文集「高専教育」，Vol.32，pp.171-176(2009)
- 2) 千葉幸一郎：高専の国語教育における百人一首の暗唱指導，論文集「高専教育」，vol.34，pp.47-52(2011)
- 3) 千葉幸一郎：三度目の正直の百人一首暗唱指導，論文集「高専教育」，vol.35，pp.203-208(2012)
- 4) 奈良高専ホームページ[<https://www.nara-k.ac.jp/contribution/2017/10/post-98.html>]（最終検索日：2019年2月22日）
- 5) 奈良県立図書館ホームページ[[https://www.library.pref.nara.jp/reference/honbako/nara\\_bungaku.html#REFERENCE](https://www.library.pref.nara.jp/reference/honbako/nara_bungaku.html#REFERENCE)]（最終検索日：2019年2月22日）
- 6) 帝塚山短期大学日本文芸研究室編：奈良と文学 古代から現代まで，和泉書院(1988)
- 7) 浦西和彦ほか編：奈良近代文学事典，和泉書院(1989)
- 8) 植西耕一：文学探究奈良大和路，奈良新聞社(1989)
- 9) 河野仁昭責任編集：奈良 ふるさと文学館第35巻，ぎょうせい(1994)
- 10) 嘉瀬井整夫：奈良大和路文学散歩，鳥影社(1998)
- 11) 田中昭三：文士の大和路，小学館(1998)
- 12) 田中昭三著・『サライ』編集部編：俳人の大和路，小学館(1999)
- 13) 浅田隆・和田博文編：古代の幻 日本近代文学の「奈良」，世界思想社(2001)
- 14) 浅田隆・和田博文編：文学でたどる世界遺産・奈良，風媒社(2002)
- 15) 川村二郎：イロニアの大和，講談社(2003)
- 16) 小野慎司：教員交流制度を利用した物理教育を中心とした教育視察と教育実践，仙台高等専門学校 名取キャンパス研究紀要，Vol.51，pp.19-22(2015)